

# 認知症やがん 治療紹介

## 徳大病院フォーラムに518人

「健康寿命」と「がん」部は加齢による身体変化に  
 テーマにした「徳島大学」関する治療法などを3人が  
 病院フォーラム2025 解説した。

「徳島大学病院主催、徳島新聞社共催」が9日、徳島市の徳島大蔵本キャンパスであった。徳島大学病院の7人が最新の治療法などを紹介し、市民ら518人が理解を深めた。

2部構成で行われ、第1

認知症について話す松原外来医長。徳島市の徳島大蔵本キャンパス



脳神経内科の松原知康外来医長は、認知症を予防するためのメタボリック症候群や血管リスクの管理方法について説明し、早期のアルツハイマー病に対して「アミロイドβ」を標的とした抗体療法が新たに使用

可能となったと紹介。「継続的な運動やバランスの良い食事の心がけが大事」と強調した。

第2部では、胃がんや乳

がんの最新の診断、治療法について4人が語った。

呼吸器外科の滝沢宏光診療科長は「肺がんになる最大の原因は喫煙」と指摘。CT検査には被ばくや過剰診断などのデメリットがあるとされるものの、「早期

に(肺がんを)発見するた  
 め、重度喫煙者(にとって)  
 は受ける意味がある」と述  
 べた。小さいがんでは従来  
 より切除部分を少なくする  
 手法が確立されていること  
 なども説明した。

(瀬尾叶望)